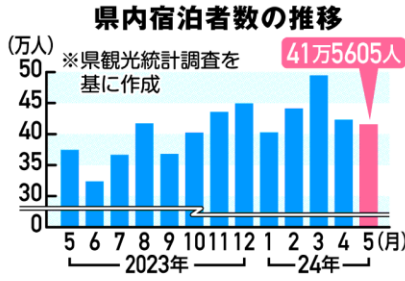




5月宿泊者41万人

円安追い風 海外客41%増加

県内の5月の延べ宿泊者数は41万5605人で、前年同月に比べ4万1006人(10・9%)増えた。円安を追い風に、訪日客が引き続き好調だったことが主な要因。新型コロナウイルス禍を脱したゴールデンウィークで国内客も回復し、関東や近畿、九州と全体的に増えた。



海外客は7万6417人で、前年同月に比べ41・1%の増。これまで5月は大型連休で割高になる日本旅行を避ける傾向にあったものの、今年は円安もあり好調を維持した。最大の韓国が3万3664人で23・5%の増。台湾が1万3669人(75・9%増)、中国が5759人(214・9%増)だった。国内客は33万9188人で、5・8%の増。出発地別では福岡県が最多の8万6501人で3・9%増えた。次いで関東が5万8890人で8・4%増。中部も14・0%、近畿が11・3%、それぞれ増加した。大分県内からは3万

8961人で3・6%減少した。全体は新型コロナウイルス禍前の2019年5月(42万5408人)に比べて2・3%減で、おおむね同じ水準に回復した。県は大型誘客企画「福岡・大分デスティネーションキャンペーン」(4~6月)による関連イベントの盛り上がりも後押ししたとみている。観光政策課は「今後も来年の大阪・関西万博へ切れ目なく誘客の機運を高めたい」と話した。宿泊者数は県が観光統計の一環で毎月、調査している。対象は県内の従業員数10人以上の全189施設。

(清松俊朗)

〔問①〕 大分県内の5月の延べ宿泊者は41万5605人でした。これは前年同月に比べ何人、何%増えましたか。

〔問②〕 海外客のうち、最多はどの国からですか。何人で、前年同月に比べて何%増えましたか。

〔問③〕 海外客はこれまで5月を避ける傾向にありましたが、どうしてですか。今年が好調だった理由は何ですか。

〔問④〕 国内外の宿泊者をより増やすための方策を考えよう。